

人と自然が輝く水源の郷



## 東京2020を推進する道志村議会と執行部

- 定例会（30年度一般会計決算認定、請願、他）…………… P 2
- 議案等の質疑…………… P 3
- 平成30年度決算認定…………… P 6
- 一般質問…………… P 8
- 議会活動報告…………… P 9
- あの一般質問は・今…………… P12
- 紹介（野原自主防災会）/がんばる人紹介（朝日屋 菅谷達子さん）…………… P13～14

# 9月 定例会

## 平成30年度決算認定審議と 令和元年度補正予算審議等

9月定例会は9月11日～20日まで開催され、報告事項（3件）、承認事項（1件）、条例改正（7件）、平成30年度決算認定（8件）、請願、発議、同意（各1件）を審議可決しました。また、一般質問は1名でした。

### おもな審議事項

#### ●報告 3件

・平成30年度決算に基づく道志村健全化判断比率、(株)どうし経営状況、教育委員会自己点検評価報告書について報告を受けた。

#### ●承認 1件

・特別職、常勤職員の給与、旅費の条例改正について。

#### ●条例改正 7件

・道志条例基本台帳条例、印鑑条例、会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例改正、他4件を審議。

#### ●補正予算 7件

・令和元年度道志村一般会計（第2回）、他に6件の特別会計（第1回）の認定について審議。

おもな財源 (補正分)	・村 税	2,291万円
	・地方交付税	842万円
	・県支出金	1,090万円
	・繰越金	2,058万円
おもな使いみち (補正分)	・総務費（公用車管理費、公有財産管理事業費、他）	574万円
	・民生費（身体障害者福祉費、子育て支援事業、他）	1,981万円
	・土木費（土木総務費、道路維持費）	462万円

#### ●決算認定 8件

・平成30年度一般会計、特別会計7件の認定について審議。

#### ●請願 1件

・教職員定数改善、少人数学級推進、義務教育費国庫負担制度拡充を図るための請願。

#### ●発議 1件

・教職員定数改善、少人数学級推進、義務教育費国庫負担制度拡充を図るための意見書。

#### ●同意 1件

・道志村教育委員会委員の任命についての同意。

# QA 議案等の質疑



## Q 管理捕獲について

●近年、村内の広範囲で鳥獣による食害が起きているが村の対応は

**A** 村では、山梨県特定鳥獣保護管理計画に基づく個体数調整の為、昨年は二ホンシカ 200 頭、イノシシ 20 頭を捕獲した。今後も林業、農作物の被害状況、捕獲の被害状況を見ながら、継続していく。



## Q サテライトオフィス構想について

●サテライトオフィス誘致事業の進捗状況は

**A** 事業計画当初より現在までに約 1,500 万円の予算をかけ、サテライトオフィス誘致パンフレット等を作成して、7 月にはセミナーへの参加や都内の企業各社と横浜市商工会議所に対し誘致活動を行った。また、9 月末には事務所の改修工事も終了し、10 月には神奈川経済同友会にも協力をお願いし、誘致を進めて行く。



サテライトオフィスの建物

### Q 中山間直接支払について

●再契約の更新時期は

**A** 平成27年度から第4期が開催され令和元年度で終了、来年4月5期目が開始され契約年数5年であり途中解約はほぼできない。来年2月か3月に説明会があり再契約される。



直接支払を受けている農地

### Q コミュニティ・スクール（学校協議会制度）に対する考えは？

●制度導入は教育委員会の努力義務と思うが

**A** 道志小・中学校においては、学校評議員制度や学校関係者評価委員会等を活用するとともに、PTAや教育委員会等を通じて、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させてきている。現状の学校体制の更なる充実に努めながら、体制の導入も検討していきたい。



## Q 若者定住応援補助事業について

●若者の定住や過疎化の防止に成果はあったか？

**A** 平成29年度には移住者1名、村内定住者1名、利子補給1件だったが、平成30年度には移住者1名、村内定住者4名で5世帯の定住に繋がり、利子補給5件と利用者は増えてきているが、この制度も5か年計画となっているので積極的に制度の活用を促していく。



若者定住応援補助事業

## Q 人口減少対策は

●減少の要因と対応は

**A** 平成30年4月1日～平成31年3月31日の人口異動状況は、出生5人、転入48人、計人口増53人、死亡16人、転出80人、計人口減96人で実質人口減少43人となる。主な転出理由は大学卒業、就職、結婚等による住所変更、高齢になり通院・病気療養などによる不便が一番の原因である。村ではインフラ整備の早期実現、教育条件の充実、18歳までの医療費無料化等の子育て支援、移住定住対策に積極的に取り組んでいる。



# 万円など 総額 28.7億円

特別会計（7会計の合計） 8億328万円

## 平成30年度 一般会計の決算

- 歳入（はいつてくるおかね） …… 20億6,374万円
- 歳出（どうつかわれたか） …… 18億9,878万円
- 歳入歳出差引（のこったおかね） 1億6,496万円

繰越事業に充当するお金 6,707万円

純繰越金（31年度の事業で使うお金） 1億389万円

（単位：千円以下切捨て）

## 平成30年度 特別会計の決算

（単位：千円以下切捨て）

会計名	歳入総額	歳出総額
国民健康保険	2億9,193万円	2億8,221万円
国民健康保険診療所	1億589万円	1億589万円
簡易水道事業	5,990万円	5,970万円
介護保険	2億772万円	1億9,925万円
介護サービス事業	57万円	57万円
浄化槽事業	9,124万円	9,114万円
後期高齢者医療	4,603万円	4,603万円
合計	8億328万円	7億8,479万円

# 情報通信施設管理事業 1億407

【一般会計 20億6,374万円・

## 【一般会計の目的別歳出】

● 議会費

30年度 3,740万円  
29年度 3,978万円

● 総務費

30年度 4億4,336万円  
29年度 3億3,394万円

● 民生費

30年度 2億2,694万円  
29年度 2億3,056万円

● 衛生費

30年度 1億 211万円  
29年度 1億 663万円

● 農林水産業・商工費

30年度 2億8,850万円  
29年度 3億3,700万円

● 土木費

30年度 1億9,798万円  
29年度 1億6,900万円

● 消防費

30年度 1億 99万円  
29年度 1億 52万円

● 教育費

30年度 1億7,969万円  
29年度 1億9,080万円

● 災害復旧費

30年度 696万円  
29年度 0円

★ 29年度は災害事業0件の為

● 公債費（借金の支払い）

30年度 3億 873万円  
29年度 3億2,574万円

● 諸支出金

30年度 6,132万円  
29年度 9,114万円

**監査結果** 実質公債費比率は7.8%となっており、早期健全化基準の25%を大きく下回っていることから、健全な運営と認める。ただし、前年度から0.7ポイント上昇し、上昇傾向であるため財政状況に十分留意し、財政的な推移を見守る必要がある。



杉本孝正 議員

# Q オリンピック自転車ロードレース 本番に向けての成果と課題は

## A 関係者からアンケートやヒアリングを実施

杉本

7月21日に、オリンピック1年前テストイベントが行われたが、本番に向けての成果と課題は

ふるさと振興課長

テストレースを終え、参加いただいた関係者からアンケートやヒアリングを実施し、その結果から、成果については「来年の本番でもコースサポーターとして参加したい」、「レースを間近で観戦でき楽しかった」などの意見が多かった。課題についてはコースサポーターの



激走する道志みち

皆様からは、統括役であるコントラクターADとの連携不備が多く挙げられた。

また観光客に対する交通規制の周知は不十分であり、来年に向けた大きな課題となっている。

Q 観戦場所の確保と  
宣伝、周知は

ふるさと振興課長

歩道の設置された2km程度の範囲と組織委員会からは周知されていた。私有地も制限されてなく、民地を含めた観戦場所について今後検討し、宣伝、周知も含めて組織委員会と協議している。

Q 異常気象の対策に  
ついて村の考えは

村長

地震、台風、豪雨等で身の危険を感じた時は自ら行動し、守らなければならない。防災訓練を通し村民一人一人が自分の身は自分で守る行動を認識していただきたい。現時点で把握している危険個所の改良等は、県営事業の減災防災事業で実施し、

安全対策に努めていく。

Q 避難情報5段階の警戒レベルの周知方法は

総務課長

国では、「避難勧告等に関するガイドライン」を今年3月に改訂し、5段階の警戒レベルを用いて伝えることとした。村で6月に甲府気象台長から説明を受け、「道志村ホームページ」及び「広報どうし」への掲載、また防災訓練での講習会において説明を行い、周知を図った。

Q 避難場所の安全確保は

総務課長

避難場所としている施設は、建築基準法に基づく新耐震基準を満たしている施設となっているため、安全は確保されている。

# 議会活動報告

## ● 森林環境税と森林環境譲与税のシンポジウム

令和元年7月18日

「森林環境税と森林環境譲与税」（仮称）創設促進議員連盟の総会が和歌山県田辺市において開催されました。

平成6年に議員連盟が設立されて以来、25年にわたり全国352議会の要望で平成30年



総会の様子

度税制改正において制度化され国民一人一人が等しく負担を分かち合って我が国の森林を支える仕組みとして新制度が創設されることとなりました。

国民から税をいただく森林環境税と、これを森林の整備等に使う森林環境譲与税という2つの税から構成されます。

森林環境税は1人年額1,000円となり、森林環境譲与税の規模は約600億円で令和6年からの施行予定ですが本年から200億円規模で先行実施されます。

森林整備に地域の安定的な財源が確保されることは、様々な森林の公益的な機能を発揮するとともに地域住民の安全・安心につながり、安定した雇用の創出や地域の活性化に寄与するものである。

## ● 町村議会広報研修会

令和元年7月26日

町村議会広報研修会が山梨県自治会館で行われ、講師に（株）コンセント アートディレクターの筒井美希先生による「住民に伝わる読みやすい議会広報誌デザイン」と題して講演していただきました。

講演に先立ち、山梨県町村議会広報功労者の表彰式があり、「道志村議会」が表彰状を頂きました。この表彰は各自治体において10年かつ40号以上を発行した場合に対象となる表彰です、先輩諸氏の御努力によりスタートした「議会だより」も今回で第44号を数えますが、編集作業をする中でスタート時の大変さが本当に良く解りました。改めて、創

刊から携わった先輩方に感謝申し上げます。

また、8月8日には山梨県広報コンクール議会広報紙部門町村の部において「奨励賞」も頂き広報委員会としては非常に励みとなる賞でした。



広報功労者の表彰

## ● 町村議会広報編集委員行政調査に参加して 令和元年 8 月 26 日・27 日

第 33 回町村議会広報全国コンクール優秀賞に輝いた千葉県芝山町議会に、山梨県市町村議会広報編集行政調査として参加しました。

芝山町議会の議会だよりは、改革への挑戦を旗印に、年一回の県外入選団体への視察、入選団体の広報紙の検証など研究を重ね、「読む前に、手にしてもらおう工夫」として表紙と裏表紙に人物写真、インタビュー記事の掲載、町民が主役の紙面作りに努力改革を進め、「今以上の未来」を目指し取り組んでいます。

今回の研修では参加者の多くの方が感銘を受け、紙面作りに今迄以上の取組を期待出来る

感じました。我々も今回の研修を参考にして読みやすく、読んでもらえる、議会だよりに取り組んでいきたいと思えます。



## ● 建設厚生常任委員会の活動

令和元年 8 月 28 日

建設厚生常任委員会では 8 月 28 日に委員会を招集し次の項目について検討し、提言書にまとめました。

提言書は 9 月 13 日に村当局に提出し、近年の異常気象により土砂災害が危惧される箇所への事前の対策の必要性についても話し合

いました。

その他として、公共交通について、ふるさと振興課長より、現状と今後について説明を受け、委員全員で共有を図り継続検討をして行く事を決定しました。

- 1、やまゆりセンター裏山沢の土石流危険箇所解消対策
- 2、道の駅どうし横、道坂川の土石流災害防止措置
- 3、村道三ヶ瀬線狭あい道路箇所の改善

# 議会活動報告

## ● 総務文教常任委員会の活動

令和元年 8 月 28 日

総務文教常任委員会では、令和元年度の政策提言に向けて、7月・8月の2回の委員会を開催し、教育長、ふるさと振興課長の出席

を求め、小学校の英語教育の充実及び、オリンピック自転車ロードレースの対応について説明をいただき、12月に提出する提言書についての協議・検討を行いました。



6年生英語授業の視察

また、7月8日には道志小学校において、来年4月から新学習指導要領の全面実施に伴い、英語の教科化（小5・6）及び外国語活動（小3・4）が行われることを踏まえ、本年度より先行実施を行っている英語教育の授業視察を行いました。その中で、現場の先生方と意見交換した内容や要望を把握し、提言書に織り込めるよう協議しました。

## ● 山梨県町村議会議長会創立 70 周年記念・町村議会議員研修会

令和元年 8 月 30 日

山梨県町村議会議長会は、県内 14 町村議会議長をもって組織されている連合組織で、地方議会の円滑な運営と地方自治の振興発展に寄与することを目的として、戦後まもない昭和 24 年創立し、今年で 70 年を迎えました。

それを記念して、山梨県自治会館で「創立 70 周年記念研修会」が開催され、山梨学院大学大学院研究科科長・法学部教授・江藤俊昭氏による「山梨県町村議会等あり方研究会最終報告書について」の講演があり、引き続き「小規模自治体における今後の町村議会のあり方」と題し、パネルディスカッションが行われま

した。小規模自治体議会における、現状とあり方、課題等が語られ、今後の議会運営に大いに参考になりました。



創立 70 周年記念研修会のようす

# あの一般質問は今…

平成25年12月定例会

## 質問

- ①山ゆりセンターへの太陽光発電施設の設置計画の進捗は
- ②災害時の対応として、太陽光以外の再生可能エネルギー政策への取り組みは

## 答弁

太陽光施設は設置後のメンテナンス、屋根の荷重耐力等から公共施設ではなく遊休農地等への設置を検討していく。また、災害時のエネルギーは発電機等で対応する。

平成26年9月定例会

## 質問

平成26年2月の大雪の雪害により、鳥獣害防止ネットの破損被害が発生しているが状況と対応は

## 答弁

本事業は平成16年度から実施をしており、15地区総延長26kmになる。今回の鳥獣ネット破損被害は14ヶ所700mであるが本年中に補助事業で対応する。

## その結果今は



設置されている鳥獣害ネット

- ①鳥獣防止ネットは村内全域に亘り設置されている。
- ②地形、周囲環境等から被害防止効果に課題があり、現在、田畑の圃場毎に設置する防止柵に対し助成している。



太陽光発電を行っている民家

- ①太陽光発電施設は、一般家庭における最大出力10kw以下の発電施設を前提に考えている。
- ②公共施設への太陽光施設の設置は考えていない。
- ③耕作放棄地、遊休農地、林地等への発電施設の設置は検討する。
- ④太陽光以外の再生エネルギー政策は、木質バイオマスストーブ助成、家庭生ごみ処理機、電気自動車に対する購入助成の制度を設けている、道志の湯は薪ボイラーを取り入れている。

## 議会の考え

鳥獣害防止について他の防止策との併用施策の検討が必要ではないか。

太陽光発電施設の設置については規制等の検討が必要ではないか。

# 紹介

## 野原自主防災会

代表 佐藤 智秀

### 「自主防災会」の 結成にあたって



野原自主防災会は平成29年に結成致しました。きっかけとなったのは防災コミュニティーセンターの建設でした。それまで寄合いの場で「集会所がほしい」というような話がたびたび出ていました。

そんな折、地域の議員より村が進めようとしていたセンター建設の提案があり、予算を村が出し備蓄品を備えた一時避難所を整備するというものでした。時を得た提案に

皆賛同し、今の場所に地主の方の快諾を得て完成を見る事になりました。

一方で建設には自主「防災会」を作る事が必要条件となりました。役員選考にあり、たまたま消防団を退団して一番日が浅く、好条件に恵まれた自分に白羽の矢たち現在に至ります。

以来、毎年度活動・運営の為の補助金を頂き、特に今年は、大きな補助

で備蓄品の大幅な拡充を図りました。今後は、それらを最大限に活かすことが重要となりますが、備蓄品は使わなくて済む事が願いでもあります。

また、結成以来の活動面では、防災リーダー講習会を全員参加で行っており、結果、ホースの延長が全戸をカバーしている事が皆に実感として伝わり、改善を求める要望を出させてもらいました。その後ホースが追加され、実際にホースの連結作業をしましたが、あらためて体験することが必要と感じております。生まれればかりで、目に見える活動は、まだまだ

これからですが「AED」も備えたセンターを拠点に、引き続き皆さんの支援を仰ぎつつ、住民一体

で想像力を働かせ、少しずつ活動の内容を充実したものにしてまいりたいと思っております。



野原自主防災会の皆さん

# がんばる人紹介

## 朝日屋商店



現在の朝日屋商店

昭和30年頃、義母が始めた雑貨店が朝日屋商店の始まりでした。その義母も昭和61年に亡くなり、私は何もわからず途方に暮れる毎日でしたが、大勢の人々の愛情で一生懸命頑張ってきました。

そして私の忘れられない出来事は、平成11年10月の体育祭の日、店の前で交通事故に遭い、生死をさまよう状態に成った事です。



菅谷 達子さん

それでも何とか一命を取り留め、店を続けることが出来ました。家族皆で協力し合い、何とか頑張つて平成6年6月に現在の場所に新しく「朝日屋」を建て、それから早いもので25年3か月という歳月になりました。それも道志村の皆様や東京、横浜の皆様方に「頑張つて」という力強いお言葉を頂いた事が私の励みとなつておりました。その言葉を胸にこれからも強く生きるつもりで頑張ります。

私の思う事は人々の愛情を一生忘れない事です。今迄皆様方から頂いた愛情に支えられ今日が有ります。

「本当に有難う御座います」

## 編集後記

道志村議会だよりが平成20年12月26日の創刊以来今号で第44号を数えることとなりました。年間発行回数は4回ですので、11年の歴史を積み重ねたことになりました。石の上にも3年という言葉がありますが、一つの大きな区切りを感じています。

創刊号が4ページで発行され、以降、内容の充実、増ページを図り、村民に「読んでいただけ」議会広報誌を目指してきた先輩諸氏の労苦に対し感謝いたします。

10年の節目を経て、議会が住民との距離を縮める意味でも議会広報の発行意義を忘れることなく、常に住民に読まれる広報紙を目指して参ります。

(佐藤長久)

## 写真募集中

(議会だよりに掲載させていただきます)

### 広報常任委員会

委員長	菅谷 政文
副委員長	佐藤 長久
委員	杉本 孝正
委員	佐藤 進